

「はぁ、ん……はぁ、ふぁうっ、えへ……パパさまあつ♡」

「ふおっふおっふおっ、二匹ともすっかり出来上がっておるのうれしくて待ちきれん見える」

ベッドの上には大胆に股を開き、媚びた瞳でオスを誘う二匹のメス

そしてそれを見下ろす男の名はドクター・アクド―
非道な研究に手を染める悪の秘密結社アクド―のトップに君臨する男である

「うんっ、うんっ もうね？ まちきれ、ないのっ…
だいすきな、パパっ♡のお、おち○ちん…っ♡」

「えへ、えへ…♡」

おねーちゃん、とお…ワタシが、あいするパパさまのモノにい…なった、きねん？
なんですよねえ…♡ おち○ちんさまあ…はやく、ほしいですっ♡♡」

彼女たち双子の姉妹は、少し前まで正義の魔法少女として戦っていた
しかし妹であるリムがアクドーの手によって捕らえられてしまったところから事態は一変する
洗脳改造を施され、悪の怪人と変貌したリムによって
姉のカナンもまた捕らえられてしまったのだ

妹への必死の説得もむなしく敗北し、アクドーの手に落ちたカナン
彼女もまた、妹と同じ末路をたどった

洗脳改造を施され、秘密結社アクドーに所属する悪の怪人として生まれ変わったのだ
泣き叫び抵抗したカナンだったが

リムの改造データを元に研究され、より強固になった洗脳改造の前に成すすべもなく
処置はスムーズに完了した

以前の快活で優しく正義のために戦う彼女はもう存在しない

今の彼女は記憶を、そして人間の肉体を失い

ただ自分を生み出してくれた目の前の男のために尽くし従う従順な奴隷ペンド

先に生み出された妹であるはずのリムをおねーちゃんと呼び慕う悪の戦士

魔法少女怪人カナンであった



「もお、カナンはあ、まだ…うまれたばかり、でしょ？
おねーちゃんが、さきにい…おてほん、みせてあげる、からあつ
パパの、よろこぶと、いっぱいみせて、あげる…からあつ
おねーちゃんが、さきつ！ だよっ」

「うっっ、そんなのお…みなくても…しってる、もんっ
ワタシはあ、うまれた、ときから…パパさま、の…どれえべつと♡ だからあつ
パパさまのお、おちのちさまあ♡ よろこばせて、あげるのお…せんがしってる、もん
だつて、だつてえ…ワタシは、そのために、うみだして…もらつたんだ、もんっ♡」

「むっっ、おねーちゃんが、さきっ」

「ワタシも、パパさまの、おちのちさまあつ、はやく、よろこばせて…あげたいのおっ」

我先にと情欲のまま男のイチモツを取り合う二匹の従順なメス奴隷
その姿からは、かつての勇ましく理性的な面影を読み取ることはできない



「ふおおほ、ケンカはいかんぞお前たち
姉妹は仲良くせんとな

それに、チ○ポをくれてやる順番はワシの気分が決める」にて、
お前たち奴隷ベツトが勝手に決めていいものではないぞ」

「ああう、パパ……ごめんな、さいっ」

「パパさまあ……」めん、なさいです……っ」

「わかればよい、ちゃんと謝れて偉いぞお
リムもカナンも本当にいい子じやのお」
お前たちはワシの自慢の奴隷ベツトじや、よしよし」

ドクターアクターがどう言いつつ「二匹の頭をなでると
二匹は途端にうつとリと表情をドロけさせた

「へっ……へん……っ♡♡♡♡♡ボク……っ」

「パパさまあ……っ♡♡♡♡♡えへへえ」

「ふおおふおお、なでてやるだけでこれ以上ないくらいに幸せそうにして、かわいいベツトじや
では、そのかわいい従順なベツトのどちらから」褒美をくれてやるかしやが……
ふむ、よし決めたぞ」

「はい、おはようございます」

あ

あゝ♡
おト♡

「あひゅうっ！ ひやつ♡ ひゃああんっ♡」

「やはりまずは、お姉ちゃんであるリムからじゃろうて」

『うれひっ！ はひっ、ひゅ♡ パパ、パパあつ♡』

「ああう…おねーちゃん、いいなあ…♡」

うれしそうに快感に喘ぐリムの姿を見て
カナンが切なさにつまやうく
そんな「妹」に見せつけるようにリムはビクビクとしなやかな肢体を跳ねさせ
交尾の激しさを増していく



「ひゅあぁっ♡ パパのっ、でっかいおちのちんぽっ♡ さい「おっ、だめ？」
はぁ、あぁっ♡ パン、パン、っでえ、なる…たびにいっ
あたまの、なかあっ、ぱーん♡ っでえッ
なっちやう、のおっ♡
あぁ、あぁっ！ きもちいいおっ♡
パパ、パパあっ♡ パパの、すっくべっ、すっくべっのおっ♡
ひあわせえっ、あひっ、ひゅっうんっ♡」
「いいなっ、いいなっ、おねーちゃん…っ」

あぁっ♡
あぁっ♡
あぁっ♡

すっくべっ！
すっくべっ！
すっくべっ！

すっくべっ！
すっくべっ！
すっくべっ！

憎むべき敵であったはずの男のペニスを受け入れ幸福の最中にあるリム
そして、それを羨ましそうに見つめる元姉現妹のカナシ
全てが狂ってしまったかのような歪な空間に
淫欲に溺れたメス二匹のむせるような媚臭が充満する
「ふおっふお、そんなに切なそうな顔をしなくとも
この後すぐに犯してやるわい
発情しっぱなしのどうしようもない淫らな奴隷ペッドを満足させてやるのも
飼い主であるワシの責務じゃからな」

「あぁっ♡ はぁ、はぁ…パパさまぁ♡♡」

「パパっ♡ あっ、パパあっ！ んっあぁあぁ…」

「どおれ、まずは軽く一発目いっておくかのう…っ」

「ひやぐうああつ!?!」

「ひゃいっ♪
へっ、は♡

あついのお、いっぱいいいいっ♡
ふえあああああつ!!」

「ひゃいひゃいっ♡ パパ、うけとめ、るぅっ♡」

「パパのおっせんぶぜんぶ、ボク…うけとめりゅ、からあつ♡
すき、すきすき♡パパあつ!! ああつひいやあああううんっ♡」

——デューボンちゃん

「ひゃひゃひゃ」

リムの膣肉を蹂躪した肉棒が引き抜かれると
ブルブルと痙攣する膣穴が現れる

「ひっ、ひゃふ…はっ、へああ…へっ、へ♡」

「ぱ、ぱあ…ボク、のお…めしゅあなあ…
きもち、よかったあ…?」

「ふおほほ、もちろんじゃ

お前の肉体はワシ専用の性処理肉穴奴隷ベツトに最適化してやったのでう
よくないはずがない、最高じゃったぞ、リムよ」

「へへへへへ…♡ よかったあ…♪」

「パパに、よろこんで…もらえて…ボクも、うれひい…♡」

「さて次じゃのう、可愛がつてやるぞ…カナンよ」

「ふああ…っ！ ひゃいっ♡ かわいが、つてっ、くらさい、ませえっ♡ パパさまあっ♡」



「あつふぎいいいいんっ!!!」

「くっふいっ♡ ひっ、ふー、はふっ、あああっ!!」

「この反応、挿入してやっただけでイッたようじゃな、ふおほほ
そんなにワシのチ○ポが待ち遠しかったか」
「イ、ぐっ？ いった、いったあ♡」
ワタシは、イきまし、たあ…♡ えへ、えへ…♡
パパさま、のおう…おち○ちん、さまあっ♪ すき、すぎてえ
いって、いっちゃった、えへ…♡」

「へへ…カナン、しあわせ、そう…♡」

「ふおっふおっふお、これは気合いを入れて期待に込めてやらねばならんのう」

「んっ!? へっっー ひゃうんん!!」

男は、いまだに痙攣のやまないカナン、の股間を押し広げるようにグイッと腰を上げ激しいピストンを開始した

「あぎっ!? ひゃあぁっ!! ひぁっ!! ふぎいいん!!」

熱い肉棒が膣奥をノックするたびに裏返ったメスの媚声がカサンの口から吐き出される

「思い出すの、カナン、お前が初めて」に連れて「られた日」のを

「へっ、はっ!! ふあ、あぁっ!!」

「ボク、が…つれて、きた、んだよねっ、パパぁっ!!」

「うむ、リムの淫毒で

動けないお前の処女を奪ってやった時も
「うやって大声で泣き叫んでおったわ」

「あぎっ!! へぁっ!! ひゃあぁっ!! あっ、あッ!!」

「威勢よく妹を返せとのたまうお前を組み伏せ
処女膜を貫いたときはいい気分じゃったよ、ふおほほ
あの時のお前の悲鳴は忘れられん」

「ひゃあぁぁぁっ!! へっかふ!! ふ、ふっ、あひいひゃあぁぁっ!!」

「へびいんちいんち!!」

股間をビクビクと跳ねさせながら飛沫をまき散らすカナンに
男は嘔くように問いかける

「妹を怪人に堕とし、お前自身にも『う』して洗脳改造を施し
従順な奴隷ペットに生まれ変わらせたワシを、どう思う? カナンよ」

「へあっ、あ…? はう、うっつ。んあッ! はへ…!」

カナンには主人であるアクトーが
何を言っているのかわからなかった
怪人になる前の記憶をキレイさっぱり消去され
つい先ほど「この世に生まれた」といっ
なりなっているカナンに
理解できないのは当然のことだ
カナンといふ名前だった生まれ
た時に「主」に与えられたもの
今の彼女の意識を構成しているのは
植え付けられた奴隷ペットとしての
知識と感情だけ
だから――





「はっ、は！ ああッ♥

ワタシ、い...はあッ、すき...ッ♥

パパさまがあ、だい...すきッ♥

しゅき、しゅきすきッ！！ パパさまあッ♥

「ふおっふおっふお、そうかワシが好きか」

「しゅきいッ♥ だいッ、すき、ですッ♥」

「ワシのモノになれてうれしいか？」

「うれしいいッ♥ ワタシ、パパさま、のっ、モノおッ♥」

「ふおほほ、ではかつてのお前の仲間も

ワシのモノにするのを手伝ってくれるかの？」

「てっ、だゆッ！ なかまあ、パパさまの、モノッ♥ すまッッ」

あうん

あうん

かつての仲間というのが何を意味するのか
カナンにはわからなかったが
奴隷ペットは主の命令が絶対なのだから
なんだろうと関係ない
その答えに満足し、「ニヤニヤとうれしそうに笑う
愛する主の顔を見て、カナンもまたうれしくなり笑う
アクトーは洗脳改造が完全に行われたのを確信した
かつて愛と正義と、血を分けた妹を信じて戦った魔法少女はもういない
「にているのは、性と支配される悦びを知り堕ちきった淫らな愛の獣だけ

「ふおほほっ、かわいいらしい奴隷ペットじゃ
カナンよ、今後はその魔法少女の力でワシの敵を屠れ
ヒーロー連合を叩き潰してやるのじゃ」

「ひやいつ♡ ひいろお、れんごー?」じぶしゅっ、ます!!!
パパさま、のおっ!ー てき!ー ぜんぶ、ぜんぶ...!」めしゅっ
あつ、ああゝえへっ♡ なんか、あたま、なかあつ、きもち、いっつ
パパさ、まのおっ、やく、に...たてりゅ、と...おもった、らあつ♡ えへへ、へっ
ころしゅ、いっばい、パパさま、てきいつ!ー
いつびき、の...ず...えへっ、へはっ♡ はひやはははっん」

「ボク、ボクもっ、ひいろお、れんごお、ぜんぶっ、ころす、よー
パパのじゃま、するっ、イヤなてき! ぜったい、ゆるっ、さない、の!」

「ふおっふお... 二匹ともその意気じゃ」

堕ちた二匹のメス奴隷ペットの
裏切り宣言を聞き股間を早らせるアクトー
同時に隆内で肉ヒタがイチモツを激しく求め絡みつき
興奮は最高潮に達した

「くふっ、たまらん

限界じゃ、しっかりと奥に注いでやるでっ、お前もイけ、カナンよ!」



「あひいえッ!? あっぐあっ、おおおっ!? あっあっ、ああっ♡」

「ガッ!!
オ、
アア!?
はひい、
いぎいいッ!?

パパ、さま、ああっ！ パパさ、まあっ♡
 あづいの、なか、おおっ!? どぶどぶぐう!?
 イ……ぐうっ!! イっで!! りゅっうっ!!
 「……」

テキスト

「おほあッ!? おっおっおっ!?」

んがっ……ああああああああああああああんっ!!!」

——フジ「ボンッ」

「……はっ、へああんっ♡へああっ、あへ……えへ……♡ふあ……あ……♡」

大量射精が終わった肉棒が小気味よい音と共に引き抜かれた

「は……は……は……へっ、えへ……ば、パ……さまあ……♡」

「ん、パパあつ？ カナン、の……めすあなあつ、きもち、よかったあ？」

「ふおっふお、さすがリムの妹じやな、リムと同じくらい
良い使い心地のメス穴じゃったぞ」

「へへ……だって、カナンっ♡よかった、ね？」

「はへえ……♡うんっ、うんっ……♡おねーちゃん、あり……がとおっ♡
パパ、さまもお……♡ほーび、あり、あとお……♡」

つかって、もら……えてえっ、うれひ、かったあ……♡

これ、からもお……どれーべっとお、として、え……いっば、あい、つかって、くらじやい、ねえ……♡」

「ふおほほ、当然じや、そのために前たちを生み出したんじやからな

マ○コがワシのチ○ポの形になって二度と塞がらなくなった後もガンガンハメ倒し
壊れて戦力にもならなくなればモルモットとしてワシの研究の糧にしてくれるわい
最後の最後までワシの役に立たせてやるとも、奴隷ベツトにとって最高の幸福を与えてやる」

「あはあっ♡しあわせ、え……♡」

「へへっ♡パパあつ、だ……いきいっ、だよ♡」

——END